

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長氏名	河野 真由美	生徒指導主事氏名	藤田 光洋
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『縦割り班活動』

取組のねらい『キーワード 栗原しぐさで』

- 他学年との交流を通して、望ましい人間関係をつくる。
- 教え・教えられる関係や、助け・助けられる関係を体験しながら、栗原しぐさの実践を広げる。
 <栗原しぐさ>①立ち止まり、相手の目を見てあいさつをする。
 ②ゆずる気持ちを大事にする。
 ③気持ちの良い学びの場をつくる。

取組の具体的内容『キーワード 児童自らの力で』

1. 縦割り班づくり (全校児童 4色×6班 24班 約25名ずつ 通年)

- 自己紹介 ○仲間づくりゲーム ○「1年生を迎える会」



2. 第1回縦割り班遊び(班対抗戦 4色班長会にて種目決定)

- 折り返しリレー ○綱引き など



3. 第2回縦割り班遊び(班ごとの遊び 班長・副班長にて決定)

- 長縄跳び ○おにごっこ ○ボールゲーム など



4. 卒業に向けて

- 卒業記念品づくり(手づくりのプレゼント) ○「6年生を送る会」

取組の課題・創意工夫『キーワード 他学年を尊重』

○「楽しい」から「やってよかった」に

この活動の意義を考え、単に自分を中心に「楽しい」というだけではなく、他学年の思いや気持ちに気を配り、「相手が喜んでくれた。」「やって良かった。」というやりがいを高学年には求めたい。その意味では、一つ一つの活動後に丁寧な振り返りをさせ、その点での反省・評価が重要となるが、時間的な余裕がなく振り返りの交流などに課題が残った。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生の思い出づくり』

○6年生が班長となり、1年生から6年生までをまとめて、活動をリードしてきた。不慣れな児童も何回か経験するうちに、普段学級では見せない上級生としての姿を見せるようになった。低学年から慕われる児童もあり、6年生にとっては自己肯定感を強めていく機会となった。また、その班の集団から卒業のプレゼントや手紙をもらったりすることで、貴重な小学校の思い出を多くの6年生が共有できた。

今後の展開『キーワード 感謝して学校をきれいにしよう』

○2月の生活目標を「感謝して学校をきれいにしよう」と設定し、児童会と6年生を中心としながら、全校で学校をきれいにしていく取組を展開する。その中に、縦割り班も活用しながら、清掃の仕方や工夫を助言し合うような活動にしていき、より密接で豊かな人間関係を築いていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード ○○しぐさで オッケー！』

○本校では、9年前に「栗原しぐさ」を生み出し、現在も児童のすべての行動目標になっている。基本があるので、最低限の指導の統一と共通性が保たれている。具体的な「○○しぐさ」があると、高学年になれば、自分の行動をしぐさに照らし合わせて反省することも、自発的にできるようになる。月ごと、年度ごとの目標も大事にしていくが、本校独自の不動の目標があることは、生徒指導を進めていく上では強みとなると考える。